

評価委員会総合評価

研究課題名：メソ・局地アンサンブルを利用した顕著現象に対する最適予測シナリオの構築

評価委員

委員長：榊原茂記

委員：山中吾郎、藤田 匡、大野浩史、永戸久喜、中里真久、岡本幸三、
足立アホロ、仲江川敏之、山本剛靖、中村浩二、村田昭彦、井上 卓

評価年月日：令和8年2月27日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった
- 優れた研究であった
- 研究を実施した意義はあった
- 失敗であった

2. 総合所見

メソ・局地アンサンブルを活用して顕著現象に対する最適予測シナリオを構築することを目的に多数の地方官署との協働のもと、学術的・業務的に非常に大きな成果を挙げた。特に、決定論的予測を上回る精度を示す事例の提示や線状降水帯等への適用の拡大、解析ツールの開発は現業利用を見据えたものであり、学会発表・論文出版などでも相応の実績が認められる。また、50名以上の地方官署職員が参画し、人材育成の観点でも大きな価値があった。

一方で、実装に向けた関係部署との調整や手法のさらなる高度化が今後の課題として考えられる。

総じて、本課題は顕著現象予測の精度向上に寄与する優れた研究であり、今後の発展も大いに期待されることから、(非常に) 優れた研究であったと評価する。